

## 《 第1号 テーマ「蚕糸Gone！」号 》

### 祝！東京コミュニティスクール開校

2004年8月30日東京コミュニティスクールが正式開校しました。  
新入学生4名を迎え入れて、パワフルに新学期スタートです！

主な内容>>

- トコちゃんとロケット(第1回)
- テーマ「蚕糸Gone！」

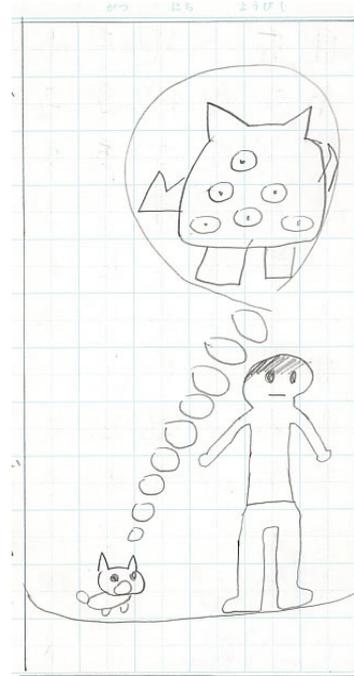
### トコちゃんとロケット(第1回)

みんなで学ぶ日本語で、子どもが創作した作品です。



**あ**る日、トコちゃんが野原を歩いて  
いると、大きな大きなロケットがありま  
した。  
その時あいずがありました。  
3、2、1、ゼロ  
ロケット発しゃしたのです。

トコちゃんは、後ろをふりむきました。  
人間がいました。  
トコちゃんは人間の事をかいぶつみた  
いに思いました。  
ロケットは、どんどん上へあがってい  
きました。



## 車の解体イベント

2004年7月24日(土)杉並区立和田中学校(校長:藤原和博)との共同主催で、生徒主体の企画による車解体イベントを行いました。



## テーマ「蚕糸Gone！」

### 学びの基本は“感覚”“体験” 糸はいろいろ



スクールの隣にある「蚕糸の森公園」。蚕糸試験場の跡地に作られた公園だ。「蚕糸って何?」「なぜ蚕糸試験場はなくなったの?」ということ子どもたちの「感覚」「体験」をベースに考えてゆきたかった。カイコガの作り出す糸を「絹糸」と呼んだ。じゃあ絹糸以外に他にどんな糸があるんだろう?さまざまな糸を引っ張って強さを比べる。木綿糸、麻糸、合成繊維、どの糸も子どもたちがどんなに引っ張ろうと切れない。しかし、絹糸だけは、ぷつと切れて、繊維がふわっと広がる。なんとも優雅な感じ。子どもたちもその独特の糸の質感に驚く。「これが絹糸なんだよ。」その後、自分たちの着ている服で絹のものがあるかとチェックしてみる。当然ながらない。どうして絹糸でできた服は着ないの?蚕糸はどこにいったの?とってもよさそうな糸なのに、どこに蚕糸は GONE したのか。子どもたちは、絹糸を「感覚」でつかみ、そこから学びを深めていききっかけをつかんだ。身の回りの何気ないことを題材とし、「実際の感覚」と「リアリティのある体験」をもとに進めることの意義を改めて痛感し、テーマ学習こそ、小学生の学びの根幹であると確信した。

東京コミュニティスクール Tokyo Community School

〒166-0012 東京都杉並区和田 3-37-5 第5 鴨下ビル(1F~4F/屋上)

TEL:03-3313-8717 FAX:03-5305-7234 URL:<http://tokyocs.org> E-mail:[school@tokyocs.org](mailto:school@tokyocs.org)

東京CSしんぶん 第1号 2004.10 /編集長 市川 力 /編集委員 川口 誠